

| | | | | | | |
|---|---------------------------------|---|---------|--|------------|----------------------------------|
| 科目名 | 学校教育ダンス | | | 担当者 | | |
| 英文名 | Dance Teaching Method in School | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学科 | ダンス学科 | 健康スポーツ学科 | 子ども運動学科 |
| 履修年次 | 3 | | | | 専門・選択 | |
| 授業形態 | 実技 | 科目ナンバー | DME214 | | 卒業認定方針との関連 | ⑦⑧ |
| 【到達目標】 学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点をあて、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価法について学習する。また、ダンス指導に必要な指導言語、伴奏楽器の使い方、音楽の選択、板書の工夫などについても学習する。 | | | | | | |
| 【ルーブリック（学修の到達レベル）】 | | | | | | |
| 学修内容 | | 理想的な到達レベル | | 標準的な到達レベル | | 未到達レベル |
| 学校体育におけるダンスの内容についての理解 | | 理論を理解し、自らまとめて説明できる。 | | 学習指導要領や参考書に基づいて説明できる。 | | 理解が不十分で説明できない。 |
| 学校体育におけるダンスの指導計画 | | 学習した知見を生かし、自分自身の特性を生かしたダンスの指導計画を作成できる。 | | 学習指導要領や参考書に基づいて指導計画を立てられる。 | | 計画を立てることができない。 |
| 学校体育におけるダンス指導技能 | | 確かな指導言語を用い、十分な示範ができ、生徒の動きを最大限に引き出す指導ができる。 | | 適切な指導言語を用い、示範を行い、生徒の動きを引き出す指導ができる。 | | 指導言語や、示範が不十分で、生徒の動きを引き出すことができない。 |
| 【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション、フォークダンス①② 【到達目標】 授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。 取り組みやすい外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr) | | | | 第9回 創作ダンス・題材⑧ 作品の運びを学ぶ題材 【到達目標】 作品を作るための、運び方を学ぶ。 イメージと動きを引き出す効果的な太鼓のたたき方を実践的につかむ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr) | | |
| 第2回 オリエンテーション、導入のしかた・題材①、リズムの示範実習 【到達目標】 授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。 導入の単元より、現代的なリズムのダンスを学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr) | | | | 第10回 学んだ題材の復習を活かした作品作りと指導のポイント 【到達目標】 学んで来た題材の復習を行い、改めて指導のポイントをつかむ。 それらを連続させて作品にする体験をする。 指導法実習に向け、学習指導案の書き方について学ぶ。 【授業時間外学習】 指導法実習で行う課題を教科書により検討する。(1.0hr) | | |
| 第3回 創作ダンス・題材②、ひと流れの動きを引き出す示範実習 【到達目標】 ダンスとの出逢いの授業。ものを使ってひと流れの動きの指導法を学ぶ。 ひと流れの動きを引き出す実習を体験する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr) | | | | 第11回 グループ作品作りに対する指導方法を学ぶ。指導法実習の準備活動 【到達目標】 簡単なデッサンからグループ創作をするときの教師の指導法を学ぶ。 自分で選んだ題材の指導について、太鼓のたたき方や声のかけ方を検討する。 指導法実習のシミュレーションを行う。 【授業時間外学習】 指導法実習で行う課題について、自分の指導のシナリオを完成させる。(4.0hr) | | |
| 第4回 創作ダンス・題材③、極限を引き出す示範実習 【到達目標】 対極の動きの連続を手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。 極限を引き出す示範方法を実習する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr) | | | | 第12回 創作ダンスのクラス作品作り・題材④ 【到達目標】 絵画のイメージをきっかけとした作品作りを体験する。 グループ創作をクラス作品に構成する方法を学ぶ。 指導法実習で取り組むべき内容について学ぶ。 【授業時間外学習】 指導法実習の指導案を練習し、掲示物を作成する。(1.0hr) | | |
| 第5回 創作ダンス・題材④、リズム太鼓の使い方実習 【到達目標】 群の動きを手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。 リズム太鼓の使い方を始め、伴奏楽器の使用法について実習する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr) | | | | 第13回 指導法実習① 【到達目標】 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。 【授業時間外学習】 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(1.0hr) | | |
| 第6回 創作ダンス・題材⑤、授業内発表会の持ち方 【到達目標】 身近な生活や日常動作を手がかりにした基本的な題材の指導法と、簡単な授業内発表会の指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr) | | | | 第14回 指導法実習② 【到達目標】 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。 【授業時間外学習】 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(1.0hr) | | |
| 第7回 作品の鑑賞と現代的なリズムのダンス・題材⑥ 【到達目標】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、簡単な踊り合いの指導法を学ぶ。 作品の鑑賞と評価法について学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr) | | | | 第15回 指導法実習③、ダンス学習の評価のポイント 【到達目標】 指導法の実習のあと、これまでの学習を振り返り、ダンス授業の指導方法と評価のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 これまでのノート、資料を整理し、教科書も用いて全体を復習しておく。(1.0hr) | | |
| 第8回 現代的なリズムのダンス・題材⑦、発表会のバリエーション 【到達目標】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、授業内での簡単な踊り合い、見せ合いの指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr) | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 中学校でのダンス指導法を学びつつ、高等学校や小学校などでの指導や、社会体育、レクリエーションなどさまざまな場面での指導において、応用できるような力をつけてほしい。マイクロティーチング方式によるグループ学習を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、指導法を実践的に身につける。舞踊専攻学生として、自分自身の実技力をどのように活かして現場での初心者指導を行うのか、実技、理論共に身につけていくことを望んでいる。授業の際は、各自、A4版の授業ノートを用意すること。服装は指導者としてふさわしい服装で臨むこと。表現運動学において学んだ、「発達段階とダンス」、「ダンスの創作過程」を復習しておくことと良い。 | | | | | | |
| 【実務経験のある教員による授業科目】 中学校教諭（保健体育）としての実務経験を活かし、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価方法等について、実技を中心に指導を行う。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書として「改訂版 明日からトライ！ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編（大修館書店）を使う。毎時間、授業内で使用する。 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 課題達成度（授業における実技の課題達成度、指導法実習等）70%、知識理解（学習カード・授業ノート・指導法実習指導案）30%の割合で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 表現運動学 | | | | 担当者 | | |
|---|------------------------|--|---------|--|------------|---------------------------------|--|
| 英文名 | Dance Movement Studies | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学科 | ダンス学科 | 健康スポーツ学科 | 子ども運動学科 | |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | | 専門・必修 | | | |
| 授業形態 | 講義 | 科目ナンバー | DMR101 | | 卒業認定方針との関連 | ⑥⑦⑧ | |
| 【到達目標】 舞踊表現における主要な技能である「踊る」「創る」「観る」のそれぞれの特徴や構造、また相互の有機的連関について認識を深める。また、舞踊における身体やダイナミックイメージとしての舞踊運動の特性についても理解を深め、舞踊活動を豊かに展開するための基礎認識を形成することを目的とする。 | | | | | | | |
| 【ルーブリック（学修の到達レベル）】 | | | | | | | |
| 学修内容 | | 理想的な到達レベル | | 標準的な到達レベル | | 未到達レベル | |
| 舞踊表現における主要な技能「踊る」「創る」「見る」の特徴や構造の理解 | | 主要な技能について特徴と構造を理解し、相互の有機的連関について説明できる。 | | 主要な技能について特徴を理解し、資料を参照しながら説明できる。 | | 主要な技能について、理解が不十分で、特徴や構造を説明できない。 | |
| 舞踊における身体やダイナミックイメージとしての舞踊運動の特性の理解 | | 舞踊運動の特性を身体やダイナミックイメージに触れつつ自分の知見として説明できる。 | | 舞踊運動の特性を理解して資料を参照しながら説明できる。 | | 舞踊運動の特性について理解が不十分で、説明できない。 | |
| 考えたこと、理解したことを文章に表したり仲間と話しあったりして思考判断表現する | | 自分の考えをオリジナリティーを持って記述したり、述べたりして思考を深められる。 | | 自分の考えを記述したり、仲間と話しあうことができる。 | | 自分の考えを記述したり、仲間に伝えたりできない。 | |
| 【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション、ダンスとは何か 【到達目標】 ダンスとはどのように定義されているのか、先行文献から学ぶと共に自分にとってダンスとは何なのかを考察する。 【授業時間外学習】 ダンスの定義について検索してみる。(4.0hr) | | | | 第9回 「ダンスの構造」その3 「群」の表現性 【到達目標】 「群」という視点で、ダンスの動きを考える。舞踊作品をその視点から考察する。 【授業時間外学習】 ダンス以外の表現についても群の効果という視点から検討する。(4.0hr) | | | |
| 第2回 ダンスの歴史、種類、舞踊における動きとは 【到達目標】 ダンスの発生の歴史や種類について理解する。ダンスの動きの構造を、時間、空間、力の面から把握する。 【授業時間外学習】 自分のこれまで体験したダンスを時間、空間、力の面から見直す。(4.0hr) | | | | 第10回 「踊る・創る・観る」その1 創る…仮定期 【到達目標】 舞踊の「踊る」「創る」「観る」の3つの技能特性を理解する。創る活動の、仮定期の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 仮定期のブレインストーミングを参考に、自分の作舞体験を当てはめてみる。(4.0hr) | | | |
| 第3回 「人間発達と表現運動」その1 幼児～小学生 【到達目標】 幼児期から小学校期の舞踊運動とイメージについて理解する。学習指導との関連も理解する。 【授業時間外学習】 人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。(4.0hr) | | | | 第11回 「踊る・創る・観る」その2 創る…仮定期から探索期へ 【到達目標】 創る活動の、探索期の特徴を理解する。探索期にどのような指導の手立てが必要かを考察する。 【授業時間外学習】 教育現場を想定して、探索期の指導を検討する。(4.0hr) | | | |
| 第4回 「人間発達と表現運動」その2 中学生～大学生 【到達目標】 中学、高校、大学期の舞踊運動とイメージについて理解する。学習指導との関連も理解する。 【授業時間外学習】 人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。(4.0hr) | | | | 第12回 「踊る・創る・観る」その3 創る…探索期から達成期へ 【到達目標】 創る活動の、達成期の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 達成期としてのリハーサルや、仕上げ、場当たりの意味を考察する。(4.0hr) | | | |
| 第5回 表現運動と男性・女性 【到達目標】 様々な舞踊作品の中で、男女がどのように表現されているかを学ぶ。 【授業時間外学習】 授業で視聴したダンス作品以外で男性、女性がどのように表現されているかを考察する。(4.0hr) | | | | 第13回 「踊る・創る・観る」その4 踊る…リズムを考える 【到達目標】 人間の体とリズム、間のリズムなど、リズムを切り口に文献を読み解きながら、理解する。 【授業時間外学習】 配付された文献の残りの部分を読んで考察を深める。(4.0hr) | | | |
| 第6回 ダンス教育とジェンダー 【到達目標】 人間の性のとらえ方、ダンス教育におけるジェンダーについて考察する。 【授業時間外学習】 自分の体験した学校教育の中でジェンダーの視点から課題となる事柄を考察する。(4.0hr) | | | | 第14回 「踊る・創る・観る」その5 観る…鑑賞と評価 【到達目標】 舞踊を鑑賞することと、評価することについて理解する。 【授業時間外学習】 どんな動きがダンスの良い動きなのかを自分なりに説明できるようにする。(4.0hr) | | | |
| 第7回 「ダンスの構造」その1 運動の変化と連続 【到達目標】 「対極の動きの連続」という視点で、ダンスの動きを考える。自身の体験した舞踊作品をその視点から考察する。 【授業時間外学習】 授業で扱った以外の作品について対極の動きの連続を考察する。(4.0hr) | | | | 第15回 舞踊表現の特性 【到達目標】 授業全体を振り返り、舞踊表現の特性を確認する。踊り手としての心構えを論じた古典に触れる。 【授業時間外学習】 15回の授業プリントをもう一度整理して内容の理解を深める。(4.0hr) | | | |
| 第8回 「ダンスの構造」その2 運動の質と表現性 【到達目標】 舞踊の動きの質と、そこから引き起こされる感情価、情調について考察する。 【授業時間外学習】 ダンス作品の感想や批評文などを収集し、どんな言葉で書かれているかを検討する。(4.0hr) | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業では、文献や、映像資料なども使用しながら進めていく。各自の舞踊活動と結びつけ、毎回の授業で展開される内容を積み重ねて舞踊の動きや身体についての理解を深めるようにする。クラス内討論や、グループ討論を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、より理解を深めていくので課題や討論などに積極的に取り組んでほしい。学習カードにより毎時間の小課題に取り組むが、次の時間に解説をしてフィードバックする。 | | | | | | | |
| 【実務経験のある教員による授業科目】 中学校教諭（保健体育）としての実務経験を活かし、舞踊表現の基礎である踊る・創る・観る、それぞれの特徴の理解と、発達段階の特性と舞踊などについて、舞踊活動を豊かに展開するための基礎認識を形成することを目的に講義を行う。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 毎時間、レジュメと資料を配付して授業を行う。 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の授業の課題達成度（授業内ミニレポート）及び授業内討論での発言内容、活動内容30%、期末試験70%として評価する。試験は、試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。 | | | | | | | |

| 科目名 | ダンス・メソッド | | | 担当者 | | |
|--|-----------------------|---|---------|--|------------|----------------------------------|
| 英文名 | Dance Teaching Method | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学科 | ダンス学科 | 健康スポーツ学科 | 子ども運動学科 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 授業形態 | 演習 | 科目ナンバー | SME202 | | 卒業認定方針との関連 | ⑤ |
| 【到達目標】 学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点をあて、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価法について学習する。 | | | | | | |
| 【ルーブリック（学修の到達レベル）】 | | | | | | |
| 学修内容 | | 理想的な到達レベル | | 標準的な到達レベル | | 未到達レベル |
| 学校体育におけるダンスの内容についての理解 | | 理論を理解し、自らまとめて説明できる。 | | 学習指導要領や参考書に基づいて説明できる。 | | 理解が不十分で説明できない。 |
| 学校体育におけるダンスの指導計画 | | 学習した知見を生かし、自分自身の特性を生かしたダンスの指導計画を作成できる。 | | 学習指導要領や参考書に基づいて指導計画を立てられる。 | | 計画を立てることができない。 |
| 学校体育におけるダンス指導技能 | | 確かな指導言語を用い、十分な示範ができ、生徒の動きを最大限に引き出す指導ができる。 | | 適切な指導言語を用い、示範を行い、生徒の動きを引き出す指導ができる。 | | 指導言語や、示範が不十分で、生徒の動きを引き出すことができない。 |
| 【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション、フォークダンス①② 【 到達目標 】 授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。 取り組みやすい外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr) | | | | 第9回 創作ダンス・題材⑧ 作品の運びを学ぶ題材 【 到達目標 】 作品を作るための、運び方を学ぶ。 イメージと動きを引き出す効果的な太鼓のたたき方を実践的につかむ。 【授業時間外学習】 指導法実習で行う課題を教科書により検討する。(4.0hr) | | |
| 第2回 リズムのダンスによる導入・題材① 【 到達目標 】 授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。 導入の単元より、現代的なリズムのダンスを学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr) | | | | 第10回 学んだ題材の復習を活かした作品作りと指導のポイント 【 到達目標 】 学んで来た題材の復習を行い、改めて指導のポイントをつかむ。 それらを連続させて作品にする体験をする。 指導法実習に向け、学習指導案の書き方について学ぶ。 【授業時間外学習】 指導DVDを視聴する。指導法実習で行う課題を教科書により検討する。(4.0hr) | | |
| 第3回 創作ダンス・題材② 【 到達目標 】 ダンスとの出逢いの授業。ものを使ってひと流れの動きの指導法を学ぶ。 ひと流れを意識させる示範を検討する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr) | | | | 第11回 グループ作品作りに対する指導方法を学ぶ。指導法実習の準備活動 【 到達目標 】 簡単なデッサンからグループ創作をするときの教師の指導法を学ぶ。 自分で選んだ題材の指導について、太鼓のたたき方や声のかけ方を検討する。 指導法実習のシミュレーションを行う。 【授業時間外学習】 指導法実習で行う課題について、自分の指導のシナリオを完成させる。(4.0hr) | | |
| 第4回 創作ダンス・題材③ 【 到達目標 】 対極の動きの連続を手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。 極限を引き出す示範の方法を検討する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr) | | | | 第12回 創作ダンスのクラス作品作り・題材④ 【 到達目標 】 絵画のイメージをきっかけとした作品作りを体験する。 グループ創作をクラス作品に構成する方法を学ぶ。 指導法実習で取り組むべき内容について学ぶ。 【授業時間外学習】 指導法実習の指導案を練習し、掲示物を作成する。(4.0hr) | | |
| 第5回 創作ダンス・題材④ 【 到達目標 】 群の動きを手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。 太鼓の使い方を実習する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr) | | | | 第13回 指導法実習① 【 到達目標 】 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。 【授業時間外学習】 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(4.0hr) | | |
| 第6回 創作ダンス・題材⑤ 【 到達目標 】 身近な生活や日常動作を手がかりにした基本的な題材の指導法と、簡単な発表会の指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr) | | | | 第14回 指導法実習② 【 到達目標 】 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。 【授業時間外学習】 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(4.0hr) | | |
| 第7回 作品の鑑賞と現代的なリズムのダンス・題材⑥ 【 到達目標 】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、簡単な踊り合いの指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr) | | | | 第15回 ダンス学習の評価のポイント 【 到達目標 】 これまでの学習を振り返り、ダンス授業の指導方法と評価のポイントを確認し、理解する。 【授業時間外学習】 これまでのノート、資料を整理し、教科書も用いて全体を復習しておく。(4.0hr) | | |
| 第8回 現代的なリズムのダンス・題材⑦ 発表会のバリエーション 【 到達目標 】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、簡単な踊り合い、見せ合いの指導法を学ぶ。現代的なリズムのダンスの単元作りについて学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(4.0hr) | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ダンスは中学校では全領域必修となっている。保健体育教員免許取得希望者・教員志望者はぜひ受講してほしい。中学校でのダンス指導法を学びつつ、高等学校や小学校などでの指導や、社会体育、レクリエーションなどさまざまな場面での指導において、応用できるような力をつけてほしい。授業は実技が中心である。マイクロティーチング方式によるグループ学習を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、指導法を実践的に身につける。指導者としての心構えを持って受講すること。A4版のノートを使用するので持参すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書として「改訂版 明日からトライ！ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編（大修館書店）を使う。毎時間、授業内で使用する。 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業中の発言内容、活動内容10%、課題達成度・指導法実習等70%、知識理解(学習カード・レポート・授業ノートなど)20%の割合で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | ダンス・メソッド | | | 担当者 | | | |
|--|--------------|----------------------------|---------|--|----------|----------------------------|----|
| 英文名 | Dance Method | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学科 | ダンス学科 | 健康スポーツ学科 | 子ども運動学科 | |
| 履修年次 | 3 | | 科目ナンバー | HBE313 | | 卒業認定方針との関連 | ⑥⑦ |
| 【到達目標】 | | | | | | | |
| 学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点をあて、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価法について学習する。 | | | | | | | |
| 【ルーブリック（学修の到達レベル）】 | | | | | | | |
| 学修内容 | | 理想的な到達レベル | | 標準的な到達レベル | | 未到達レベル | |
| 学校体育ダンス授業の学習内容 | | 学校体育ダンス授業の学習内容を十分理解している | | 学校体育ダンス授業の学習内容を理解している | | 学校体育ダンス授業の学習内容を理解できていない | |
| 学校体育ダンス授業の指導方法・評価方法 | | 学校体育ダンス授業の指導法・評価法を十分理解している | | 学校体育ダンス授業の指導法・評価法を理解している | | 学校体育ダンス授業の指導法・評価法を理解できていない | |
| 学校体育ダンス授業の指導技術 | | 学校体育ダンス授業の指導技術を十分習得している | | 学校体育ダンス授業の指導技術を習得している | | 学校体育ダンス授業の指導技術を習得できていない | |
| 【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション、リズムのダンスによる導入・題材 【 到達目標 】 授業の概要、ダンス教育の歴史的展開と現状、意義について理解する。 導入の題材としてのリズム系ダンスを学ぶ。 | | | | 第9回 現代的なリズムのダンス② 【 到達目標 】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と簡単な踊り合い、見せ合いの指導法を学ぶ。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。(4.0hr) | | | | 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。(4.0hr) | | | |
| 第2回 表現、創作課題① 【 到達目標 】 ものを使って即興的に踊りながら、ひと流れの動きを体験する創作ダンスへの導入方法を学ぶ。ひと流れを意識させる示範を検討する。 | | | | 第10回 フォークダンス① 【 到達目標 】 代表的なフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。 指導実習に向け、学習指導案の書き方について学ぶ。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。(4.0hr) | | | | 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、指導実習で行う課題を教科書により検討する。(4.0hr) | | | |
| 第3回 表現、創作課題③ 【 到達目標 】 対極の動きの連続を手がかりにした基本的な課題から、指導法を学ぶ。 極限を引き出す示範の方法を検討する。 | | | | 第11回 フォークダンス② 【 到達目標 】 代表的なフォークダンスの踊り方を体得し、指導法を学ぶ。 指導実習で取り組むべき内容について学ぶ。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。(4.0hr) | | | | 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、教科書を基に指導実習の準備を行う。(4.0hr) | | | |
| 第4回 表現、創作課題④ 【 到達目標 】 対極の動きの連続を手がかりにした基本的な課題から、指導法を学ぶ。 極限を引き出す示範の方法を検討する。 | | | | 第12回 指導実習に向けた準備活動 【 到達目標 】 指導実習に向けた準備および具体的な指導の練習、リズム太鼓の叩き方を体得する。 指導実習のシミュレーションを行う。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。(4.0hr) | | | | 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、教科書を基に指導案の練習、掲示物の作成を行う。(4.0hr) | | | |
| 第5回 表現、創作課題⑤ 【 到達目標 】 群・構成の基本的な課題からの創作、指導法を学ぶ。 群・構成の変化を引き出す方法を検討する。 | | | | 第13回 指導実習① 【 到達目標 】 グループ毎の指導案に基づいた指導実践および他グループの指導を体験しながら、内容を検討できる。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。(4.0hr) | | | | 【授業時間外学習】 指導実習内容を振り返り、教科書を基に要点を整理する。(4.0hr) | | | |
| 第6回 表現、創作課題⑥ 【 到達目標 】 身近な生活や日常動作を手がかりにした基本的な題材からの創作、指導法を学ぶ。 | | | | 第14回 指導実習② 【 到達目標 】 グループ毎の指導案に基づいた指導実践および他グループの指導を体験しながら、内容を検討できる。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。(4.0hr) | | | | 【授業時間外学習】 指導実習内容を振り返り、教科書を基に要点を整理する。(4.0hr) | | | |
| 第7回 表現、創作課題⑥ 【 到達目標 】 クラス作品、発表会に向けた創作、指導法を学ぶ。 | | | | 第15回 指導と評価のポイント 【 到達目標 】 授業全体を振り返り、ダンス授業における指導方法と評価のポイントを確認、理解することができる。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。(4.0hr) | | | | 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、教科書や資料を基に要点をまとめる。提出レポートを作成する。(4.0hr) | | | |
| 第8回 現代的なリズムのダンス① 【 到達目標 】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と簡単な踊り合いの指導法を学ぶ。 | | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。(4.0hr) | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 | | | | | | | |
| 全授業を対面で行う。ダンスは中学校では全領域必修となっている。保健体育教員免許取得希望者・教員志望者はぜひ受講してほしい。中学校でのダンス指導法を学びつつ、高等学校や、小学校などでの指導や、社会体育、レクリエーションなど、さまざまな場面での指導において、応用できるような力をつけてほしい。授業は実技が中心である。指導者としての心構えを持って受講すること。毎時間、授業に対する振り返りを個人記録ノートに記入、提出し、次の授業にてフィードバックを行う。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 | | | | | | | |
| 教科書として「明日からトライ！ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編（大修館書店）を使う。毎時間、授業内で使用する。 参考書：「ダンスの教育学」徳間書店、「女子体育」（公社）日本女子体育連盟発行 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | | |
| 毎回の授業における活動内容と指導実習を80%、授業内記録カード、提出レポートを20%の割合で評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 教育実習（事前・事後指導を含む） | | | | | 担当者 |
|---|-------------------|---|---|---|------------|---------|
| 英文名 | Teaching Practice | | | | | |
| 単位数 | 5 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学科 | ダンス学科 | 健康スポーツ学科 | 子ども運動学科 |
| 履修年次 | 4 | | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | |
| 授業形態 | 実習 | 科目ナンバー | STE402・DTE402・HTE402 | | 卒業認定方針との関連 | ⑨ |
| 【到達目標】 「教育実習」は、大学内で行う「事前・事後指導」（1単位）と実習校で行う「実習校実習」（4単位）からなる。「事前・事後指導」は2年次後期から始まり、講義、外部講師による講話、上級生からの報告とディスカッション、模擬授業等の他、教育実習に関する諸事項と、介護等体験に関する事前指導も含めて展開する。これらのことを通して、教員として必要な実践的力を向上させていくことを目的とする。 | | | | | | |
| 【ルーブリック（学修の到達レベル）】 | | | | | | |
| | 学修内容 | 理想的な到達レベル | 標準的な到達レベル | 未到達レベル | | |
| | 事前指導・事後指導に関する事項 | 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解することができる。また、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。 | 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解することができる。 | 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高めることができず、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察することができない。 | | |
| | 教育実習校の理解に関する事項 | 生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた具体的な学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。 | 生徒や学習環境等に対して観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。 | 教育実習校の学校経営及び教育活動の特色について理解することができない。 | | |
| | 学習指導及び学級経営に関する事項 | 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で効果的に実践することができる。 | 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践することができる。 | 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践することができない。 | | |
| 【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】 | | | | | | |
| 第1回 教員養成と免許法について、授業日程、介護等体験について（2年次） 【到達目標】 (1)説明を聞いて理解し、4年次の自分の姿をイメージする。 (2)学び続ける教員像について理解できる。 【授業時間外学習】 自身の目指すべき教員像について考察する。 | | | 第9回 授業研究5（模擬授業の実践3） 【到達目標】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第2回 本学の教員養成の特色、口頭内諾の進め方（2年次） 【到達目標】 (1)本学の教員養成の特色と口頭内諾の進め方を理解する。 【授業時間外学習】 本学の教員養成の特色について復習する。 | | | 第10回 授業研究6（模擬授業の実践4） 【到達目標】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第3回 保健体育教師の使命、内諾手続きについて 【到達目標】 (1)保健体育教師の使命について理解する。 (2)正式な内諾手続きについて理解する。 【授業時間外学習】 学び続ける教員像や授業で勝負できる教員像の視点から改めて理想の教師像について考察する。 | | | 第11回 授業研究7（模擬授業の実践5） 【到達目標】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第4回 4年生の教育実習体験報告 【到達目標】 (1)4年生の報告から、自己の課題を明確にする。 【授業時間外学習】 自己の課題を明確にし、教育実習のイメージを深める。 | | | 第12回 外部講師による講話（中学校教員） 【到達目標】 (1)中学校での教育実習の進め方や中学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)中学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)中学校における道徳、総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第5回 授業研究1（模擬授業の意義と進め方について） 【到達目標】 (1)模擬授業の意義と進め方について理解する。 (2)アクティブラーニングやICTを取り入れた授業計画や実践について理解する。 (3)特別の支援を必要とする生徒の理解を踏まえた授業計画や実践について理解する。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | 第13回 外部講師による講話（高等学校教員） 【到達目標】 (1)高等学校での教育実習の進め方や高等学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)高等学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)高等学校における総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第6回 授業研究2（体育授業におけるマネジメント技術の習得） 【到達目標】 (1)体育授業の基礎的条件となるマネジメント技術について、実技を通して理解する。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | 第14回 教育実習直前の諸注意 【到達目標】 (1)教育実習期間中（3週間）の過ごし方、事務処理、報告方法等を理解する。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第7回 授業研究3（模擬授業の実践1） 【到達目標】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | 《教育実習校実習 3週間》 これまでの教職課程や事前指導で身に付けた力を教育実習で発揮し、実践と省察の往還を通して、教員としての実践的力を身に付けることができる。 | | | |
| 第8回 授業研究4（模擬授業の実践2） 【到達目標】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | 第15回 教育実習の報告会 【到達目標】 (1)教育実習で学んだことをレポートにまとめ、報告する。 上記の活動を通して、自身の教育実習の成果と課題を理解する。 【授業時間外学習】 教育実習を省察し、改めて、自身の目指すべき保健体育教師像について考察する。 | | | |
| 【学習上の留意点】 教育実習校実習は4年次であるが、この授業は2年次後期から始まり、教育実習事後指導までの長期間に亘る。この間の欠席は一切許されない。教職に就くことを目指す者として、真剣な態度で臨んで欲しい。なお、本授業の第6回～11回については、模擬授業設計・実施・省察のサイクルをグループで行っていく。教育実習において主体的・対話的で深い学びを実現するための手続きについて、受講生自ら対話的な学びを通して学んでいくため、積極的な態度で授業に臨むこと。また、グループで作成する学習指導案や個人で作成する模擬授業の振り返りシートについては、提出後、担当教員からフィードバックされる。 | | | | | | |
| 【実務経験のある教員による授業科目】 高等学校教員および校長職の実務経験を活かし、教育実習に関する個別の事前・事後指導および実習校巡回指導を行う。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「教育実習の手引き」 白旗和也他編著「中学校・高等学校 体育科教育法」建帛社（2021年） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 「事前・事後指導」の成績と教育実習校からの評価を総合して単位を認定する。 本授業における事前・事後指導の中での欠席は原則として認めない。欠席する場合には、欠席を予定している授業回の事前に「教育実習（事前・事後指導を含む）」の授業専用の欠席届を学生支援課（教務・修学担当）で受け取り、必要事項を記入の上、担当教員に提出する必要がある。また、欠席をした授業回については、必ず補講を受講する必要がある。15回の授業のうち、事前の欠席届の提出無しに2回の無断欠席をした場合には、本授業の履修を放棄したものとみなす。 | | | | | | |

| 科目名 | 教職実践演習（中・高） | | | 担当者 | | | |
|---|---|---|---|---|------------|---------|---|
| 英文名 | Practical Seminar for the Teaching Profession | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学科 | ダンス学科 | 健康スポーツ学科 | 子ども運動学科 | |
| 履修年次 | 4 | | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | | |
| 授業形態 | 演習 | 科目ナンバー | STE401・DTE401・HTE401 | | 卒業認定方針との関連 | | ⑨ |
| 【到達目標】 | | | | | | | |
| この科目は、教職課程の総仕上げとして、教育実習経験を踏まえて、学生による発表やグループ討論によって、学生ひとり一人が自己の学修課題を見つけ、課題解決のための学修を積極的に進めていく。そのため教育実習を踏まえた課題の発表は、中学校・高等学校の体育実技の授業を分けて検討する。また、保健分野及び学級活動を含む特別活動との関わりで、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるように演習を構成する。演習全体として、保健体育の教科の指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。 | | | | | | | |
| 【ルーブリック（学修の到達レベル）】 | | | | | | | |
| | 学修内容 | 理想的な到達レベル | 標準的な到達レベル | 未到達レベル | | | |
| | 教職課程における学修の省察に関する事項 | 教育実習を含めたこれまでの教職課程における学修を省察し、自身の教員としての課題を的確に説明することができる。 | 教育実習を含めたこれまでの教職課程における学修を省察し、自身の教員としての課題を説明することができる。 | 自身の教員としての課題を説明することができない。 | | | |
| | 学習指導及び学級経営に関する事項 | 教職課程で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、グループワークや指導案等の課題に効果的に応用することができる。 | 教職課程で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、グループワークや指導案等の課題に応用することができる。 | 教職課程で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、グループワークや指導案等の課題に応用することができない。 | | | |
| | 教職への意識と目指すべき教師像に関する事項 | 教職への意識を高め、「授業で勝負できる教師」、「学び続ける教師」等、明確な目指すべき教師像を確立することができる。 | 「授業で勝負できる教師」、「学び続ける教師」等、目指すべき教師像を確立することができる。 | 目指すべき教師像を確立することができない。 | | | |
| 【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】 | | | | | | | |
| 第1回 教職課程学修の振り返りと自己の課題確認 【到達目標】 教科指導、生徒指導、特別活動、部活動指導等の視点から教育実習について振り返ることができる。 【授業時間外学習】 教育実習を振り返り、課題レポートを作成する。(4.0hr) | | | | 第9回 教科外における生徒指導について「学校生活改善プロジェクト」の実践② 【到達目標】 プロジェクト活動の続きを行い、報告書を完成させ、グループ間で発表を行う。上記の活動を通して、効果的な生徒指導の方法について理解する。 【授業時間外学習】 プロジェクトを継続して行い、問題点等を記録しておく。(4.0hr) | | | |
| 第2回 保健体育科教員の使命と責任（講義） 【到達目標】 今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について理解する。 【授業時間外学習】 今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について理解を深める。(4.0hr) | | | | 第10回 特別活動・部活動指導から学んだこと 【到達目標】 部活動指導に関する事例に基づきグループ討論を行う。上記の活動を通して、効果的な部活動指導の方法について理解する。 【授業時間外学習】 グループ討論から学んだことや気づいたことを整理する。(4.0hr) | | | |
| 第3回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）① 【到達目標】 保健体育科の体育分野及び科目体育の授業研究（授業のVTR視聴とディスカッション）を通して、体育授業を効果的に設計・指導・評価するためのポイントを理解することができる。 【授業時間外学習】 保健体育科の体育分野及び科目体育の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr) | | | | 第11回 自己の学修課題の確認と研究活動 【到達目標】 第3回～10回の発表・討論を踏まえ、とりわけ不足している知識と実能力の課題の補充に向けて各自研究活動を進める。この活動を通して、自身の教員としての課題を理解する。 【授業時間外学習】 これまでに学んできたことを生かして、新たな指導案を作成する。(4.0hr) | | | |
| 第4回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）② 【到達目標】 保健体育科の保健分野及び科目保健の授業研究（授業のVTR視聴とディスカッション）を通して、保健授業を効果的に設計・指導・評価するためのポイントを理解することができる。 【授業時間外学習】 保健体育科の保健分野及び科目保健の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr) | | | | 第12回 教員として求められる社会性・対人関係能力は何か（講話） 【到達目標】 現職教員を招き、現場の実情について講話を聞くことにより、教職現場で求められる教員としての能力を把握し、これから何をすべきかを明確にする。 【授業時間外学習】 教員として求められる社会性・対人関係能力について理解を深める。(4.0hr) | | | |
| 第5回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）③ 【到達目標】 保健体育科の年間指導計画の事例検討を通して、年間指導計画作成上の留意点を理解する。 【授業時間外学習】 保健体育科の年間指導計画を作成する。(4.0hr) | | | | 第13回 教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題（講話） 【到達目標】 現職教員を招き、教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深め、教育現場で果たすべき義務と責任を果たすための心構えを養い、さらにはライフサイクルに応じた課題の変化についてどのように対応していくべきかについての準備をする。 【授業時間外学習】 教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深める。(4.0hr) | | | |
| 第6回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）④ 【到達目標】 教育実習における研究授業の指導案分析を通して、改善点を適切に抽出し、適切な評価規準を設定し直すことができる。 【授業時間外学習】 学習指導案の改善点の抽出、評価規準の設定を行う。(4.0hr) | | | | 第14回 各自の研究活動の成果発表と学生の相互評価 【到達目標】 第11回における研究活動およびその後の授業時間外学習の成果を発表相互に発表しあい、討論を行う。この活動を通して、自身の教員としての課題点を補うための学びの視点を深めることができる。 【授業時間外学習】 各自の研究活動の成果発表から学んだことを整理する。(4.0hr) | | | |
| 第7回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）⑤ 【到達目標】 教科指導におけるICT機器の活用方法や主体的・対話的で深い学びを取り入れる方法について理解する。 【授業時間外学習】 ICT機器の活用方法や主体的・対話的で深い学びの具体例について検討する。(4.0hr) | | | | 第15回 魅力ある教員をめざして一まとめレポートの作成と意見交換一 【到達目標】 教員としての資質能力（技術・知識・教職の適性）を確認し、学び続ける教員像に向けた今後の教員としての成長課題を理解する。 【授業時間外学習】 教員としての資質能力（実技・知識・教職の適性）について理解を深める。(4.0hr) | | | |
| 第8回 教科外における生徒指導について「学校生活改善プロジェクト」の実践① 【到達目標】 あらかじめ考えてきた活動内容を持ち寄りプロジェクトを決定し、具体的な対策を検討。実際に現場に出て観察、聞き取り、巡回などを行った後、本日の活動をまとめ、次回までに取り組んでくる内容を決定する。上記の活動を通して、効果的な生徒指導の方法について理解する。 【授業時間外学習】 各自プロジェクト内容を考案してくる。(4.0hr) | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 夏季休業期間中に、教育実習を含めたこれまでの教職課程での学びを振り返り、その学びの成果と課題等についてレポートを作成すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。なお、教職実践演習は、グループでのディスカッション、ポスター作成、事例研究等のアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業スタイルで進められる。そのため、受講生には、主体的に学修に取り組む態度が求められる。また、授業の中、あるいは、課題として作成される学習指導案、ポスター、事例研究のディスカッション内容等については、担当教員から適宜フィードバックされる。 | | | | | | | |
| 【実務経験のある教員による授業科目】 高等学校教員および校長職の実務経験を活かし、教育実習をふまえて自己課題を明確にし、教員としての専門性と学級経営等について理解できるよう演習を行う。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 テキスト：学習指導要領、「体育教育学入門 三訂版」（大修館）、中・高体育科教育法（建帛社）、体育授業の副読本 参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実践研究」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習時に作成する教科指導案、「教育実習の手引き」「教育実習ノート」等 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 各種レポート等の提出状況と完成度等を総合的に評価する。（履修カルテ：10％、第2回から第10回までの授業内提出物：40％、自己の学修課題の確認と研究活動により作成した指導案：30％、「魅力ある教員をめざして」に関するまとめレポート：20％） 本授業の欠席は原則として認めない。欠席する場合には、欠席を予定している授業回の事前に「教職実践演習」の授業専用の欠席届を学生支援課（教務・修学担当）で受け取り、必要事項を記入の上、担当教員に提出すると共に、後日、欠席をした授業回については、必ず補講を受講する必要がある。15回の授業のうち、事前の欠席届の提出無しに2回の無断欠席をした場合には、本授業の履修を放棄したものとみなす。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|----|-----|----|-------|----------------|-------------------|---------------|-------------------------|---------------------------|-----------------------|------------------------|--------------------|---------------------------|-------------------------|--------------------------|-----------------|------------------------|-------------------------|------------------------------|--|
| 科目名 | 舞踊教育法特講 | | 担当者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 英文名 | Dance Education and Teaching Method of Dance | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 標準履修年次 | 1年 | 単位 | 2単位 | 区分 | 特講・選択 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【授業概要・方法】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>社会文化として人々と深くつながりを持つダンスの教育的価値や学校教育・学校体育の中の位置づけを押さえる。また、特に対象とする集団の発達段階や心身の特性に応じた、学習内容の選択・学習指導の展開・学習指導のポイント等について、具体的な事例をもとに議論していく。さらに、ダンス教育をめぐる検証、研究がどのように進められてきたかを概観し、現在の研究課題を明らかにする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="0"> <tr> <td>1. 学校体育におけるダンス</td> <td>9. ダンスのグループ学習への支援</td> </tr> <tr> <td>2. ダンス教育の史的概観</td> <td>10. ダンス教育と研究③（ラウンドテーブル）</td> </tr> <tr> <td>3. ダンス学習の目標・内容の選択 学習の手がかり</td> <td>10. 単元計画の考え方と学習の評価・評定</td> </tr> <tr> <td>4. ダンス教育と研究①（ラウンドテーブル）</td> <td>11. ダンスは体育教育か芸術教育か</td> </tr> <tr> <td>5. 発達段階と学習指導方法1 幼児～低学年中学年</td> <td>15. ダンス教育と研究④（ラウンドテーブル）</td> </tr> <tr> <td>6. 発達段階と学習指導方法2 中学校～高等学校</td> <td>14. ダンス学習とジェンダー</td> </tr> <tr> <td>7. ダンス教育と研究②（ラウンドテーブル）</td> <td>15. ダンス教育と研究⑤（ラウンドテーブル）</td> </tr> <tr> <td>8. 発達段階と学習指導方法3 特別支援 大学指導者養成</td> <td></td> </tr> </table> | | | | | | 1. 学校体育におけるダンス | 9. ダンスのグループ学習への支援 | 2. ダンス教育の史的概観 | 10. ダンス教育と研究③（ラウンドテーブル） | 3. ダンス学習の目標・内容の選択 学習の手がかり | 10. 単元計画の考え方と学習の評価・評定 | 4. ダンス教育と研究①（ラウンドテーブル） | 11. ダンスは体育教育か芸術教育か | 5. 発達段階と学習指導方法1 幼児～低学年中学年 | 15. ダンス教育と研究④（ラウンドテーブル） | 6. 発達段階と学習指導方法2 中学校～高等学校 | 14. ダンス学習とジェンダー | 7. ダンス教育と研究②（ラウンドテーブル） | 15. ダンス教育と研究⑤（ラウンドテーブル） | 8. 発達段階と学習指導方法3 特別支援 大学指導者養成 | |
| 1. 学校体育におけるダンス | 9. ダンスのグループ学習への支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. ダンス教育の史的概観 | 10. ダンス教育と研究③（ラウンドテーブル） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. ダンス学習の目標・内容の選択 学習の手がかり | 10. 単元計画の考え方と学習の評価・評定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. ダンス教育と研究①（ラウンドテーブル） | 11. ダンスは体育教育か芸術教育か | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 発達段階と学習指導方法1 幼児～低学年中学年 | 15. ダンス教育と研究④（ラウンドテーブル） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 発達段階と学習指導方法2 中学校～高等学校 | 14. ダンス学習とジェンダー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. ダンス教育と研究②（ラウンドテーブル） | 15. ダンス教育と研究⑤（ラウンドテーブル） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 発達段階と学習指導方法3 特別支援 大学指導者養成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>社会文化として人々と深くつながりを持つダンスの教育的価値や学校教育・学校体育の中の位置づけを理解する。またダンス教育に関する学術研究の動向と課題を把握し、各自の関心に引きつけて論じられるようにする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【受講上の留意点】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>本授業は、講義と受講生によるプレゼンテーションに基づく討議により進めていくので、授業への主体的、積極的な取り組みが求められる。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【授業時間外学修】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業前：課題として出されたテーマに基づいた文献などをあらかじめ検索し通読して理解しておく。 授業後：講義で紹介された文献や資料を読解し、各自の研究テーマに関連づけて解説できるようにする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>適宜、資料を配付する。「中学校 学習指導要領解説 保健体育編」は、授業回によって使用する。参考書として「改訂版 明日からトライ！ダンスの授業」「みんなでトライ！表現運動の授業」他</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業におけるプレゼンテーションやその準備を50%、討論での発言内容・活動の状況を50%として総合的に評価する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 舞踊表現論特講 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |